

消防団たずね歩き「女性消防団員としての歩み」

【入団のきっかけ】

私は、2001年4月神戸市灘消防団の女性消防団員第1期生として入団しました。灘区役所でのふれあいのまちづくり協議会の会議で、同じく出席されていた消防団員さんより「来年神戸市でも女性の団員を募集するから地域から出て来てくれないか？」というお声かけがあり、「制服を着てみたい。」という単純な理由からでした。

【放水訓練を体験して】

ある年の夏期特別訓練において、小型動力ポンプを使用した放水訓練が実施されました。ホースを延長し、私は筒先を持って放水し、的に当てる役割でした。筒先の補助もない状態で、水の勢いに負けてはいけないと思い構えていたが、筒先からの放水と同時に空が見えたのです。一瞬何が起こったのかわからずに後ろにひっくり返った状態で起き上がる事もできず助けを待ちました。他の団員から「筒先離さんで良かったね。離したら大惨事やったで」と慰められました。放水する瞬間の水の勢いを身をもって経験し、同時にヘルメット・手袋着用の重要性も再確認しました。

それから地域の放水訓練では、私の体験を話し、筒先を持つ人、補助する人に「水の反動力は凄いですよ、しっかり支える補助の人も重要な役目ですよ。」と言うと、皆さんが目を見開いて「そうなんや。」としっかり支えてくれるようになりました。恥ずかしくて情けない失敗談ではありますが、地域の皆さんに説得力のある説明ができるようになりました。

【救急講習会】

私は、救急インストラクターの資格を取得して地域の救急講習会で指導しています。灘消防団では、最初の頃は女性団員だけで指導していましたが、今では男性団員と共に中学生の総合学習として一度に300人近い生徒を対象に講習会を実施しており、また、小学生を対象にした入門コースも行っています。

灘消防団では、灘方式と言われる1人が実施方法を説明して残りの指導員が揃った動作を行います。一度に何人の受講者がいても、どの指導員に当たっても全員が同じ内容の講習を受けられる講習会を目指し、毎月一回研修を行いスキル調整を図っています。

【おわりに】

この20数年で得た多くの経験を活かし、引継いでもらい、灘区の皆様が安心して暮らせる街、そのまちづくりのために微力ながらお手伝いができるようにという気持ちで、今後も消防団活動を行いたいと思います。

(灘消防団 第2分団 副分団長 平田慕子)



放水訓練



救急研修会